

令和5年度学校安全の推進に関する 有識者会議(第3回)の主な意見

「学校事故対応に関する指針の見直し」に関して

- 誰がやるのかという主語が各項目に明記しているところが大きな進化。チェックリストもあるので、この指針が具体的な動きにつながるものになるのではないか。
- 今回、「重大事故・ヒヤリハット事例の共有と活用」が、一番最初に前面に出てきたことは非常に評価できる。
- 人が倒れたときに119番通報すると、通信指令員が、たとえ救命講習を受けていなかった人に対しても、指示をするようになった点が強調されたのも非常に良い。
- 蘇生ガイドラインが5年に一度改定され、今度は2025年に改定がある。最新の改定内容をこの指針の中に反映させるシステムの対応をお願いしたい。
- ヒヤリハット事例について、実際、現場に既にいろいろ情報として入っており、個人情報に配慮しながら、非常に具体的な話が流れてきていて、これまで以上により見やすくなり、活用できる形になってきているというのは非常にありがたい。
- ボリュームのある内容なので、いかに現場に咀嚼して、活用可能な状態にしていくかが重要ではないか。
- 今回の改訂では、学校の設置者をかなり全面に言及し、さらに国への報告も明らかにしていくという中で、そういう点で吸い上げ活用していくという対策はかなり強調されたのではないか。
- チェックリストが新しく入り、学校の先生方はチェックしていただき、また、Q&Aもあり、学校関係者にしっかり理解していただく部分が加わったのではないか。
- 特に未然防止で、ヒヤリ・ハットや重大事故の情報を共有が、事故を踏まえて点検することが有機的に融合し、点検や研修に意味があることになるので、事故対応指針と安全点検がかなりオーバーラップする部分もあるのではないか。

「学校の安全点検等の在り方検討」に関して

- 先生方は、現状、施設や設備の劣化点検になってしまっているのに、子供の行動の特徴などからくる危険、子供の命の危険に対して、より重点を置いてほしい。
- 産業安全の現場の安全の基本である整理整頓とか不要物の廃棄がなされてなく、非常に危険な状態が生じているという例が多い。まず整理整頓をして、不要なものは無くすことや、点検に至る前の安全な状況をつくり出すための1つの視点であることを触れていただきたい。
- 子供の動きや、物が動いたところが重要な点検の視点であることを工夫し、盛り込む必要があるのではないか。
- 点検の全体像を理解するため、専門家が行う点検には何があるか分かるといいのではないか。
- 理科室で保管している薬品管理の視点も重要ではないか。
- 肩掛けのかばんとか、ひも、フードのついている衣服などで、何かに引っかかって窒息という事例が結構ある。そういう重大事故の教訓を現場に反映していくかが重要ではないか。
- 安全の観点で問題があることは、保護者も一緒に学ばないといけないのではないか。
- 安全上の問題の周知は、この安全点検要領がホームページで運用するので、順次更新ができるという良さを生かせるのではないか。
- 教員免許取得時に学校安全を学んでいくことの強化と、現職の教職員に研修の場でどんな事故が起き、どうすれば防げたのかを、ぜひ充実させる方向で取り組んでいただきたい。
- 非常に見やすくなって、教師の負担軽減等配慮いただいている、現場としてありがたい。要領の目的にあるが、安全管理と安全教育の関わりを踏まえたことはすごい大事と思っている。
- 学校の安全点検担当者向けの研修会で、現場には行き渡るようにする必要があるのではないか。
- 子供たちの安全点検において、安全の視点を養うという中で、子供たちと教員が情報を共有していくことが重要である。